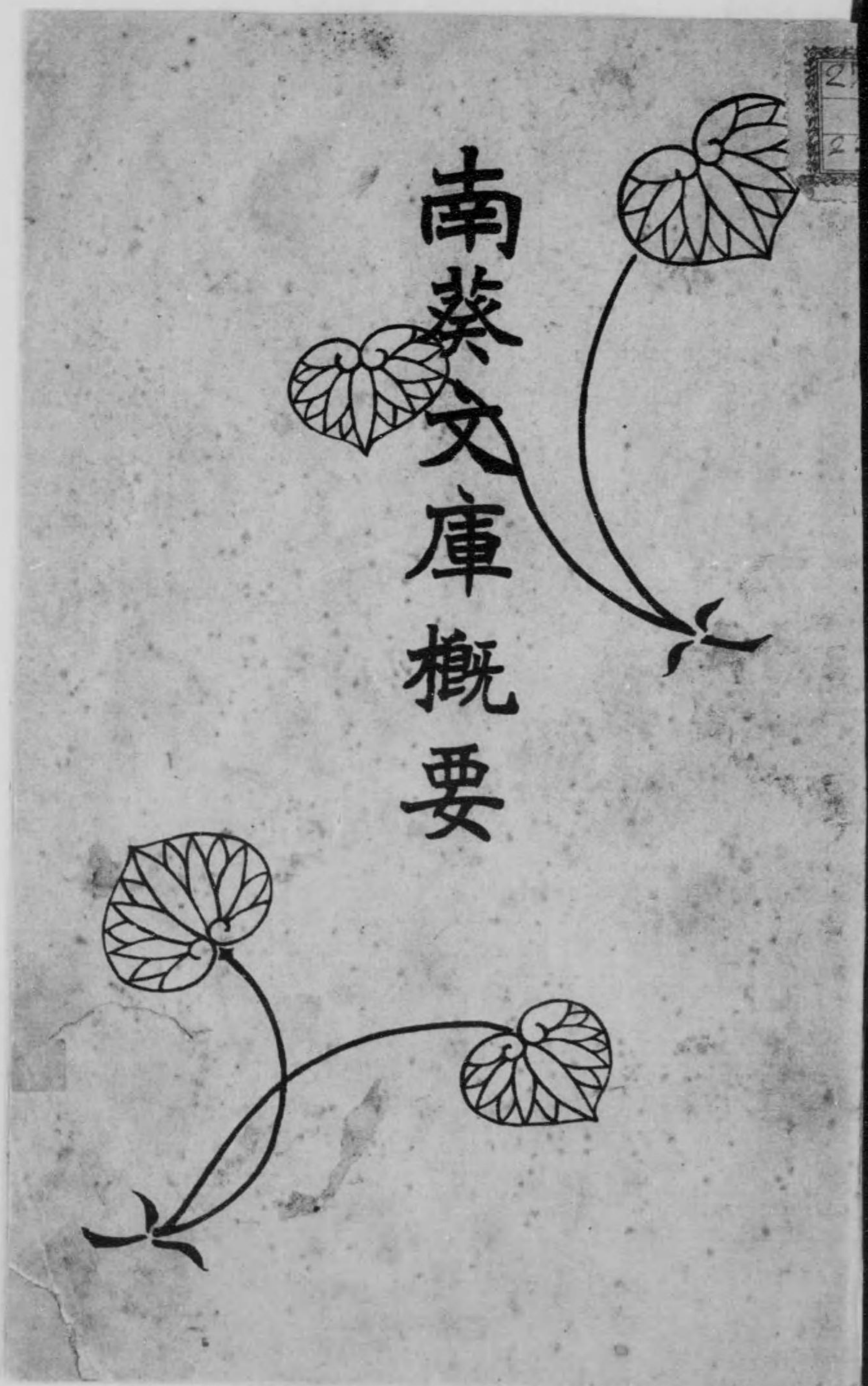
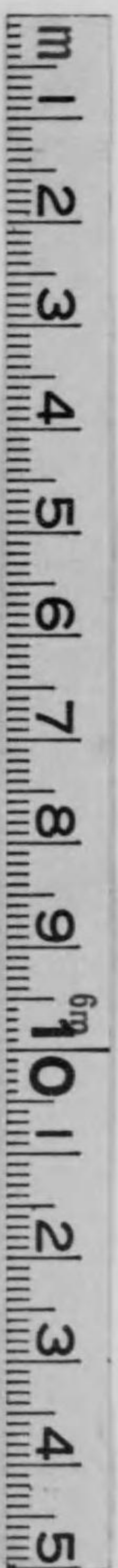
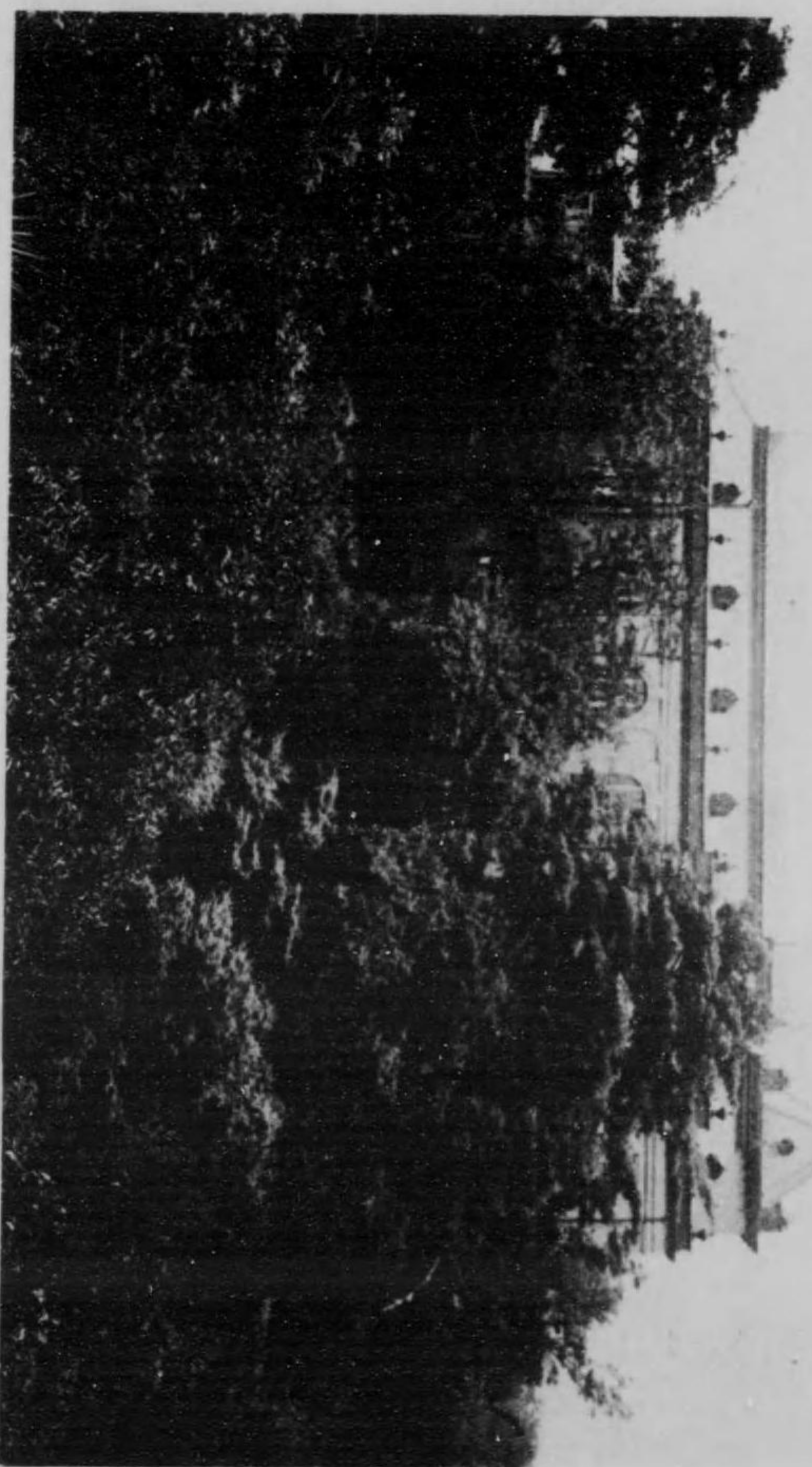


始



南葵文庫概要



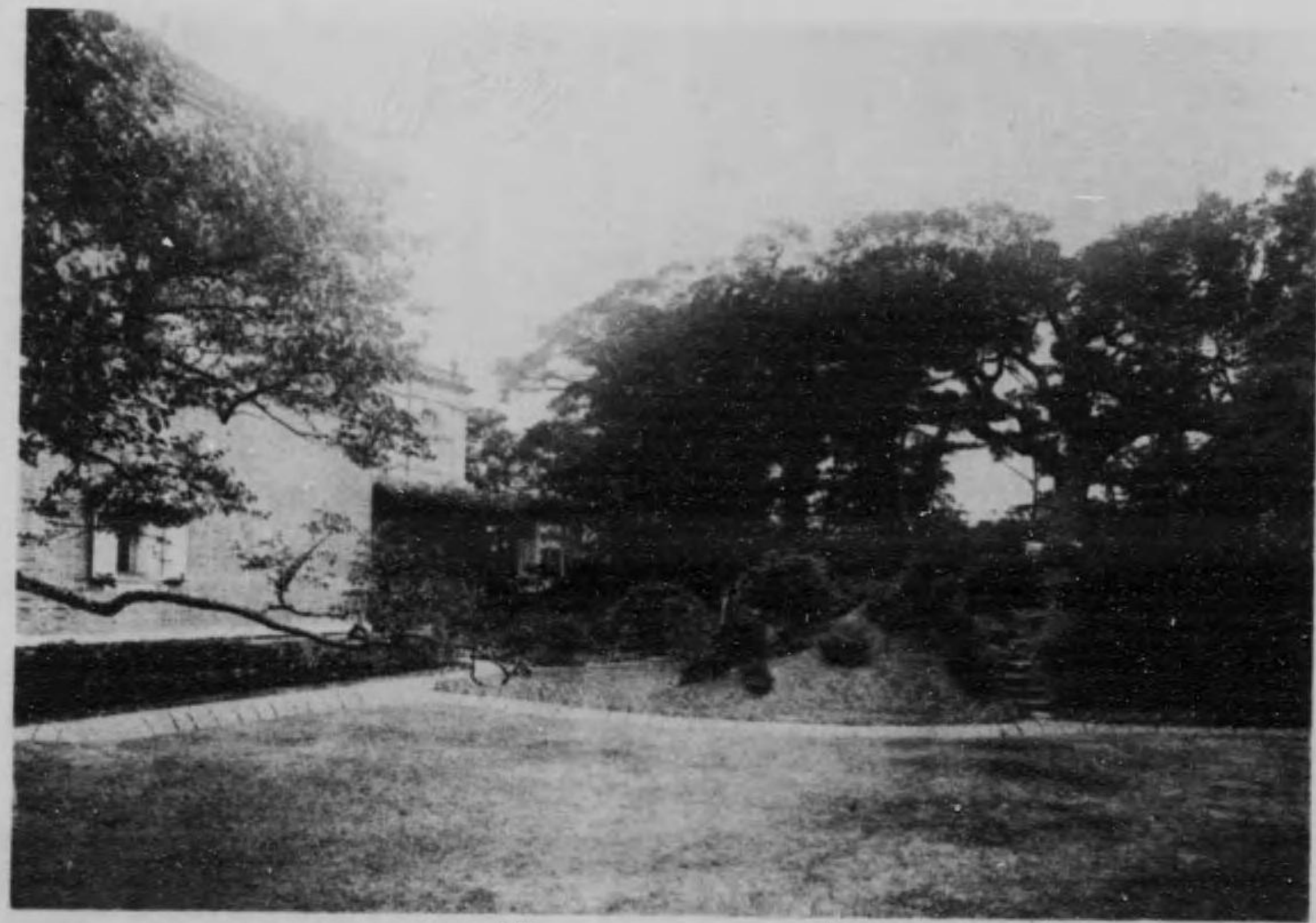


南 葵 文 庫





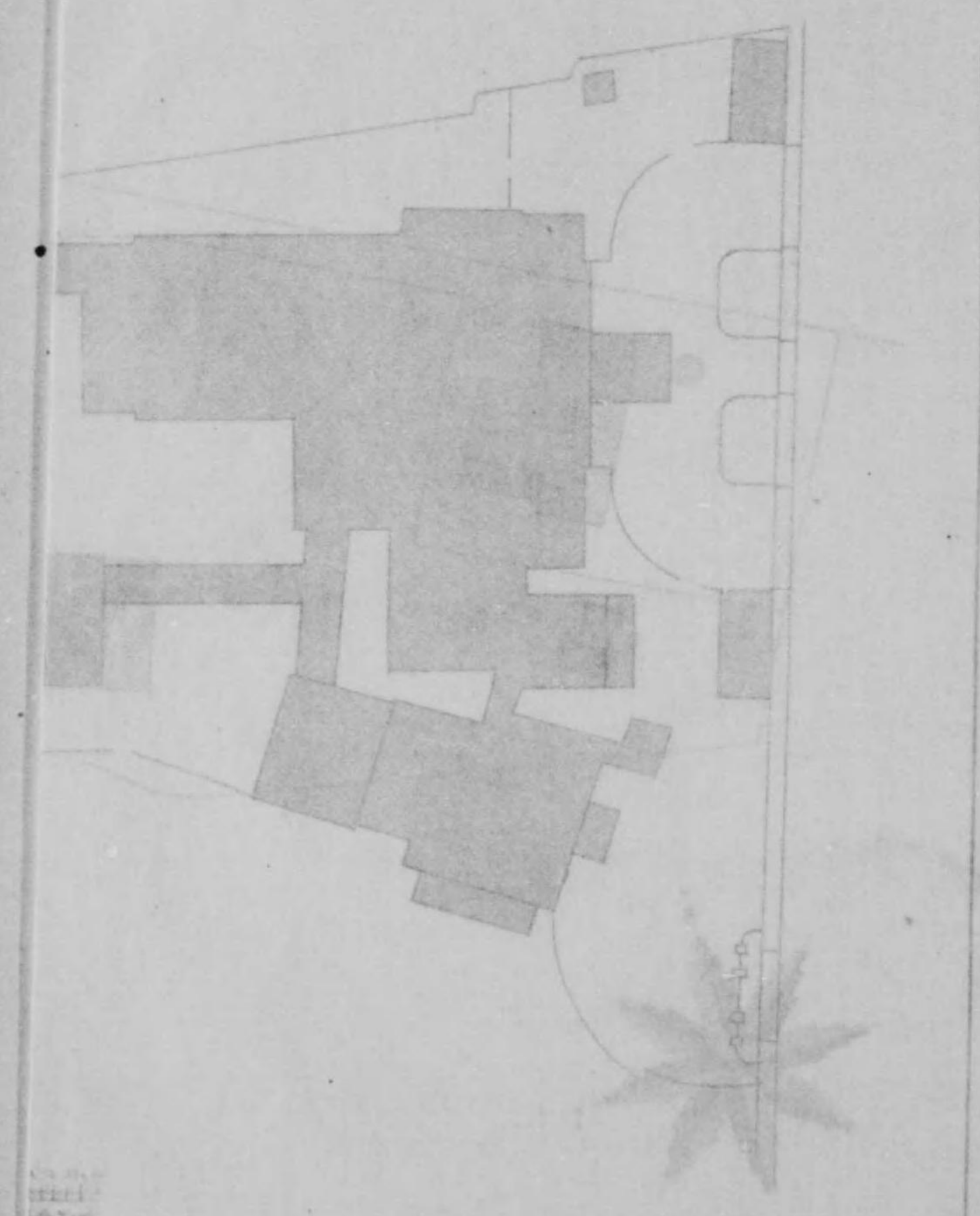
閱覽室



庭園



南藝文庫平街路圖



1:100  
1950

圖 說

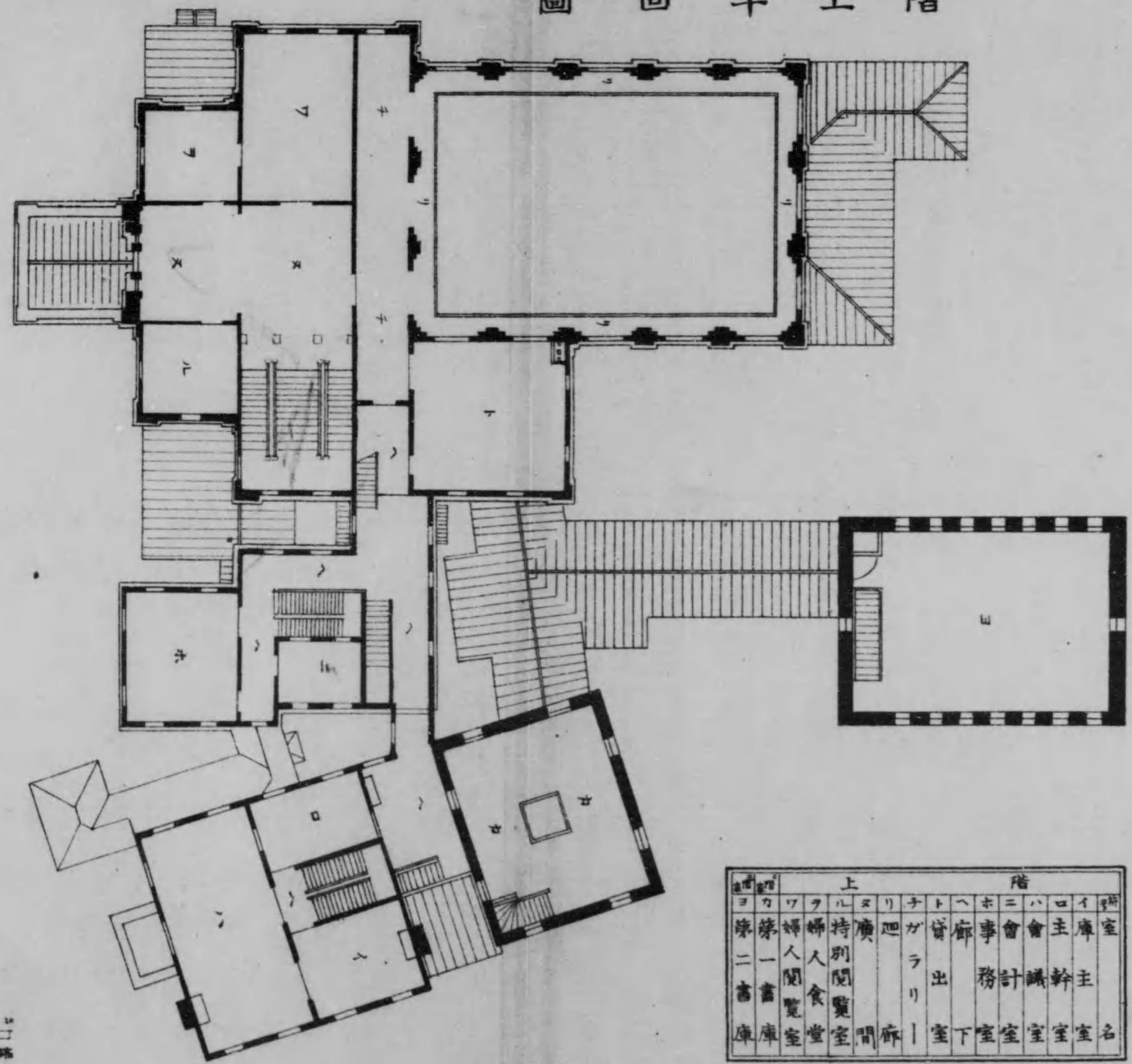
圖 說







階上平面圖

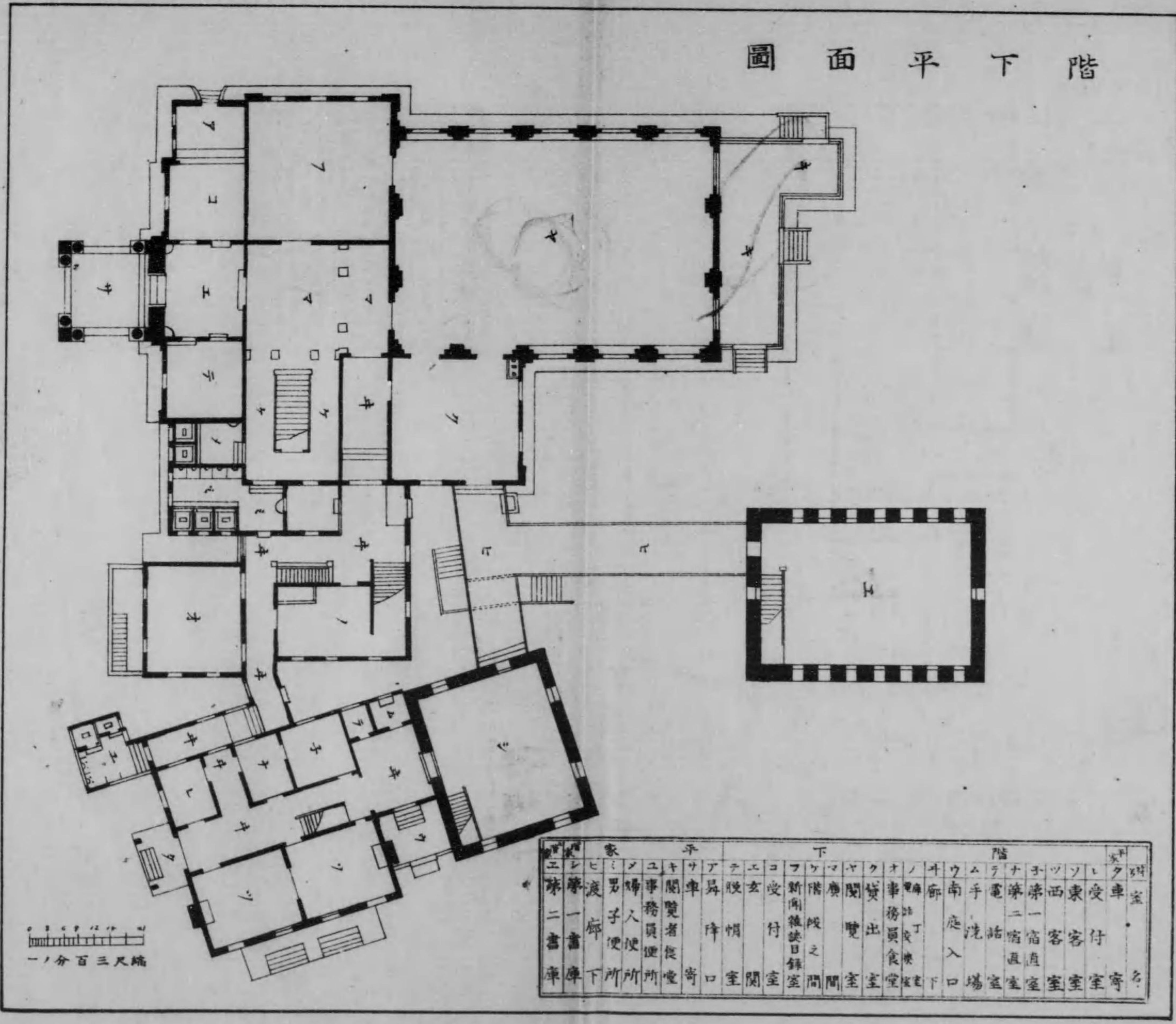


階上		階										
ヨ	カ	ワ	ラ	ル	リ	リ	ト	ホ	ニ	ハ	イ	キ
第二書庫	第一書庫	婦人閲覧室	婦人食堂	特別閲覧室	廣間	四カ	貸出室	廊下	事務室	會計室	會議室	主席室
												室名

一'全百三尺端



階下平面圖



イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ケ	コ	サ	シ	シロ	ク
大	中	小	事務員便所	事務員便所	男子便所	女子便所	受付室	脱帽室	昇降口	車庫	車庫
大	中	小	事務員便所	事務員便所	男子便所	女子便所	受付室	脱帽室	昇降口	車庫	車庫

一寸三分百









# 南葵文庫概要

(第二版)



革

本文庫の設立は明治二十九年現侯爵歐米漫遊の當時に胚胎す侯爵海外各地の圖書を蒐集するに方り深く感ずる所あり随行員鎌田榮吉齋藤勇見彦等に屢其所思を披瀝せり歸朝の後直ちに家藏書籍の整理を命したり

仰も維新以前に在ては我が和歌山藩の書籍甚た多く江戸赤坂の藩邸學問所明教館にありしに明治の初年に當りて前記赤坂に藏せる書籍悉く之れを藩地伊勢松坂に移

し此に國學所を建るの計畫ありたれとも時騒擾に際し遂に成らず以後轉々散逸の不幸に遭遇して時々坊間の書店に學問所の印影あるものを散見するに至れり幸に其中の繪卷物を初め貴重圖書類百數十點は明治九年一月度會縣より伊勢大廟附屬の神宮文庫へ奉納されたり明治三十九年十月印行の同文庫圖書目錄特種



二  
の部中に紀伊國古學館松坂學問所等の捺印ありとせるもの即ち是なり又和歌山にありし圖書は廢藩置縣に際し縣廳に保管せられ現に師範堂に其大部分を保存せり

以上の外に藩主の座右本及記録方の手に残りたる二萬有餘の書籍あり座右本中には各方面より贈進せる美裝特製の書籍多く記録方本中には徳川歴史に關するもの多し本文庫の基礎は實に此にあり而して此二萬餘卷の書籍とても大小區々の書函に納められたるまゝ倉庫の一隅に堆積し出納極めて其便を缺き加ふるに毎年夏期僅に數日の曝書をなしたるのみ是固より保管者か雜務紛糾の間に處して已むを得ざるの致す所なれとも斯ては有用の書空しく盡蝕に委するの歎なき能はざりしに幸に書籍整理の命ありたれば東京市麻布區飯倉町六丁目十四番地の邸隅に地を相し先づ侯家家職の子弟及特志者の閱覽に使せんため約百坪の二階建物と二十坪の二階書庫の創立を企て南葵文庫と命名したり是實に明治三十二年十二月にして越て同三十五年四月工事の竣成を竣て開庫式を舉行せり其南葵と命名せるは舊封地南紀と家紋葵とに因めるなり

其後新に蒐集せる書籍と諸方よりの寄贈並に寄托書牒に増加し到底盡く之を收容する能はざるに至りたれば茲に規模を擴張し三十五坪三階の書庫と二百十餘坪の新館増設に着手せるは明治三十八年五月にして工事中日露の役あり前侯爵の薨去ありたれとも益事務を督勵し明治四十一年十月工事の竣成を告げ同月十日公開の式を挙げ同年十一月三日より公衆の閱覽を開始し爾來閱覽事務以外毎月學術講話會を開き毎年五月紀念會を催し其他時々各種の催をなして専ら文庫の發展に勉め年を逐ふて其効果を實現し來れり

## 建築

本文庫は東京市麻布區飯倉町六丁目十四番地文庫主侯爵邸の一部約千四百六十坪の地を劃して敷地とし本館一棟副館一棟事務所一棟書庫二棟裝潢室一棟暖房一棟門衛一棟より成る副館は第一書庫建坪二十坪と共に明治三十一年十一月起工翌三十二年十二月竣工し建坪四十三坪普通洋風二階建物とす技師石村金次郎之を設計す第二書庫は廊下と共に明治三十八年五月の建築に係る建坪三十五坪







床<sup>○</sup> 牀<sup>○</sup> 登音及腐蝕の患を防ぐに勉め階上の床下は乾燥殺蟲せる粒穀を以て充満し八分板を張り其上に Linoleum を布けり階下は Concrete の上に Asphalt を塗りに Malthoid を敷きて其上に Linoleum を布けり特に本館階上の各室 Hall 及階下の Hall Stair Room は寄木張にして副館階上階下の各室は Carpet を敷けり又玄關は四半石を以て敷き詰めたり

壁<sup>○</sup> 本館の大部分は檜格縁樺鏡板腰羽目の上方は白堊を以て塗れとも階上の各室副館階上階下の各室共に腰羽目の上方は壁紙を張る

戸及窓<sup>○</sup> 本館に設けたる唐戸は縁は檜材にて作り鏡板は樺材にて作る玄關 Hall の間は檜材の格縁に厚硝子を嵌めたり會議室入口は青色羅紗張の自在扉を設く而して各要素所は自由扉となし開閉に便す窓は凡へて硝子張にして内開となし上部に回轉窓を付せり副館には更に外戸を設く而して各室は最も透光と通風に注意し聊かも不快の感を起さしめさらむことに勉めたり書庫の戸及窓には特大野式防火扉を取付く各窓には Spring 仕掛の Blind を設け主なる室の窓には緞子 Curtain を付せり

燈<sup>○</sup> 火<sup>○</sup> 夜間の光線は電燈を用ひ Chandelier, Pipe Pendant, Bracket, Stand Lamp 等各室の廣狹及用方に従ひ適宜の數を配置し各種の様式のものを採用せり特に閱覽室の如きは高約五間の天井中央二ヶ所に各十八燈つゝを備へし三間に擴れる大 Chandelier を垂れ Corinthian 型の四圍の柱上下に總て二十四燈の Bracket を備へ猶ほ各卓上には Stand Lamp 三個つゝを設けたり此の外要素所に白熱 Gas Lamp の豫備設備あり書庫は Quartz Lamp を以て遠近自由に書架を照すことを得

暖<sup>○</sup> 房<sup>○</sup> 本館及事務所は蒸汽熱を以て冬期暖を取る Official Wall, Bellona, Rocco, Execlior の Radiator を隨宜に据へ付けたり殊に閱覽室の Radiator は腰羽目の中に隠し總數八個を備ふ汽鑪室は屋外に設け必要なる諸機械を設備す又一管を浴室に導き沸湯の用に供せり副館は總て Gas 熱に依り各室に Gas Stove を据ゆ

乾燥驅蟲<sup>○</sup> 書庫内乾燥驅蟲設備としては第一書庫に藥劑蒸蒸法の設備あり第二書庫には特別の設けなし之れ第一書庫の書架には濕氣塵埃を防かん爲め硝子戸の設ありて通風良しからされ共第二書庫の書架は開放し各段の間隔透光通風共に完全したればなり然れとも猶蟲害を慮り隨時に庫員をして一々書籍を翻轉せ



しめ居れり此外ガス消毒の設備をも計畫中なり

炊事器 火熱はガスを用ひ普通炊事器の外ガス七輪數個及新式湯沸器を備ふ給  
水は水道栓によること普通に異ならず

浴槽 浴室はCrescent Gas湯沸器を以て備付のTubに直に熱湯を充滿せしめ得  
へく又蒸汽により冷水を直に熱せしめ得へき設備ありて宿直庫員の沐浴に供す  
洗滌器 洗面及手洗器は水道を導きて冷水を給しガス湯沸器を設けて温湯を給  
す殊に手洗器は書庫への通路にも之を設け出納手をして常に清潔を保たしめ玄  
關の入口左右には白龍石を以て造りたる厨子形彫刻洗面器を設け閱覽人をして  
出入毎に手指を洗滌するを得せしめたり

排泄 汚水は直に地下溝に下し便所の汚穢物は便器に水道を導きて洗滌流下  
し巧妙なるCerrito式濾過槽を経て淨水となりて流出し地下約二十尺の所を通し  
たる暗溝を潛りて外部に排泄す暗溝には所々溜樹を設けて常に流通に障礙なか  
らしめたり

電話 は芝三四〇芝三四一番に加入せり而して庫主室主幹室其他要所要所に

室内私設電話機を備付けて連絡交通を計れり特に閱覽人の爲に一基を設けて自  
由に使用せしむ

時計及寒暖計 書庫及各室には必ず兩機各一個を備付く日々指針を検し其正確  
を保てり時計は掛時計を用ひ或は置時計を用ひ各室の適否に従ひ形狀装置を異  
にせり

製本器 Lapsa 截斷機 一臺板紙截斷器 一臺鐵製 Press 機木製 Press 機各一臺脊出手机  
數臺箱入器 一臺附屬眞鍮花型和洋活字等數百千個洋式砥機 一臺經師用檜大板(九  
尺)一臺經師用假張板數枚馴盤(花崗石)其他裝釘標裝に要する諸器具一切を備ふ  
昇降機 Lift は書庫及貸出室に備付書籍出納の便に供す書庫にあるは亞米利加  
式昇降器にして隻手能く數十貫の書籍を階の上下に運ぶを得へく貸出室にある  
ものは輕便を旨とし一上一下交互に運動せしむ  
机及椅子 閱覽室用机は長十五尺幅四尺一脚に相向つて五人つゝの坐席を充つ  
其他丸 Table を備付け參考圖書閱覽の用に供す其他特別室(六人宛)婦人室(十六人宛)  
には室の廣狹に應じて大机を備ふ事務室用机は長三尺五寸幅二尺三寸の布張の



ものを事務員の數に應じて備付く總て木材は樺なり庫主室及主幹室は別に洋式  
大<sup>デスク</sup>を用ゐる居れり

閱覽人用椅子は特製藤麻張回轉椅子を用ゐる床上に取付け置けり婦人室及特別室  
には特製テレンプ張回轉椅子を用ゐる事務室用は普通テレンプ張椅子を用ひ庫主  
室及主幹室にはテレンプ張回轉椅子を備ふ之れまた總て樺材なり

書架 第一書庫の書架は檜製にして高さ天井に接し深さ二尺幅は各窓間の距  
離に従ひ大小あり其數階下十六基階上十四基總て六十函孰れも書籍の形體に従  
ひ自由に上下し得へき棚數枚を架し硝子戸を設けて塵埃濕氣の侵入を防ぐ此外  
階上に四基階下に一基の陳列函を備へ参考書類を開展す第二書庫の書架は總樺  
製にして高八尺幅四尺深一尺にして三階を通して百四十四函あり四函を一基と  
して表裏二行六列つゝに規則正しく排列す棚は孰れも容易に上下し得へく各函  
偏に通風を目的として盡く開放せり以上の外雜誌小冊子の類は別に函ありて其  
大小に従ひ適宜收容し得る設備あり

庭園 建物の後方閱覽人食堂に面し三百坪の地を割して庭園を設く古樅老櫨

鬱葱たる間稚松倭樹を植へ小丘を作り芝生を設け讀書の餘倦脈を醫する爲め休  
憩逍遙するの場に充てたり

庭園の一隅に奇狂の傑人故松浦武四郎の紀念室あり片板寸木悉く歴史を有する  
古材にして結構極めて奇なり令嗣一雄氏より先年本文庫に寄贈せられたるもの  
なり

### 藏書

侯爵家に在來所藏せし書籍中文庫に移されし約二萬冊は此れ本文庫の基礎にし  
て其後増加せし書籍中主なるものは故文學博士小中村清矩氏の遺書(和書)約五千  
冊外務省編纂掛故坂田諸遠遺書(和書)約一萬五千冊衆議院議員藏原惟郭氏の洋書  
約二千冊本文庫顧問故山井重章遺書(漢書)二千七百五十冊正金銀行ロンドン支店  
長故中井芳楠遺書(洋書)七百三十冊故文學博士島田重禮遺書(漢書)約一萬餘冊宗伯  
爵家記録約二千綴とす此他各篤志者より貴重有益なる寄贈並に年々新に購入す  
る書籍の累加するあり







### 圖書の分類

書籍の分類は何人も最も苦心する所なり然れども絶対不變の法則としては吾人の未だ嘗て發見せざる所なり Sobolschikoff, Dewey, J. D. Brown, 及 Lebas 等の形式も各幾多の不便を免れず畢竟するに圖書館の性質藏書の種類書庫の形式掌書の能力等に從ひそれそれ適當なる方法を選はざるへからず要は搜索並整頓の便に着目し又書籍累加に伴ふ障礙に配慮するを肝要とするは書庫を監理する者の等しく認むる所とす

本文庫の採らんと欲するは C.A. Cutter の展開分類法の趣意なり此法は百分式の窮屈を離れ適合法の散漫に陥らす最も常識に副ひ明瞭にして且つ適用し易く略は理論の統一を保ち得へければなり然れども此の法とても和漢の書籍に適用せんには極めて不便の點を發見せざるにあらす現存書籍を斟酌して勉めて分類の調定を計らすんは實際に應じて不便言ふ可からず之に於て本文庫は大體の理論は Cutter 氏の主意に離れざらんことに注意し實際の上より出來得る限りの調定を施し其符號の如きも亦別様の方法を試み居れり蓋し和漢書に Cutter 式を用ひた



石 紗 更 渡 古 材



牙 象 材



石 蠟 白 材



る例他に存する所あらざれば参考とすへき経験を尋ねる人なく後日補訂すへき  
點多かるへければ今後數年の實驗によりて成る可く Cutter 氏の形式に遠さから  
ざるやう更に整理の機あるへし何れの圖書館も悉く特定の形式を採用すへし  
との望の如きは本文庫の強て欲せざる所なり

## 目録

和漢書事務用目録は凡て Card を用ひ書名目録挿架目録分類目録を備ふ猶ほ特別  
の貴重圖書は別に目録を作りて取扱の便に供す閲覧人用目録も亦 Card を用ひ書  
名目録と分類目録を備ふ猶ほ印刷目録をも備へて搜索の便に備ふ洋書目録は事  
務用及閲覧用とも亦 Card 目録を備へたれとも書名目録に代ふるに著者名目録を  
用ひたり目録整頓の法は書名目録は五十音韻順挿架目録は書庫によりて分ち函  
架順并分類番號に従ひ順次に抽出中に納めたり此外補助 Card として小形の Slip  
を用ひ又小冊子雜誌類の整理には Check List の法によりて事務を扱ふ



### 圖書挿架

一六

特別の書籍にして將來移動の恐なきものには Fix Location に依り第一書庫に收め普通の書籍にして移動を豫想するものには Relative Location に依れり又た他人の藏書を一括して其儘保存せるものにありてはそれ〳〵適應せる挿架法を採用して成るべく原藏者の意志に負かざらんことに勤めたり

洋式装釘の書は固より普通の如く縦架せざるべからざれども和漢書及圖帖の如きものに至ては其紙葉装釘の性質よりすれば決して縦架すべきものにあらす縦架しに多少の不便を免れずとも書籍の性質を無視するは最も避くべきこと、す故に本文庫の和漢書は架上數行に分ちて堆積し其出納の不便を除去する一方として平板挿入の法を使用せり平板挿入は出納の便を助くると同時に書籍の不在を直に知れば整理及貸出し取扱上極めて便あり

### 閱覽

本文庫公開の當年にありては閱覽を需むるもの一日平均二十名に過ぎざりき蓋

し本文庫の如き特殊圖書館に在りては各科に通して普く圖書を蒐集する能はざることあり時代思潮の震動に伴ふを欲せざることあり學術の系統を追はざること亦免かれ難きことあり加之其閱覽室の如き特殊の研究者を收容する目的を以て一人につき約一坪弱の空間を充當して僅に八十名を以て定員とし入場手續にも多少の制限あるか故に閱覽人の少數なるは豫期する所なりしなり未だ其存在の弘く知れざる公開第一年に於て一日平均二十名を見たるは寧ろ好結果たらずんはあらず

最近に至ては公開當年に比して約四倍の増加を見年を追ふに従ひ文庫利用の範圍を弘めたり現に文庫の藏書を以て著作し若くは校正補訂して世に公にせる書籍甚だ鮮からず此等著作者は一々丁寧なる謝狀を付して其著述を寄贈せらる今最近に於ける狀況を述ぶれば日々平均八十餘名の入場者ありて就中學生は最多率を示し次に著述家教職員實業家官吏の順序を追ひ猶ほ年々増加の傾向を示す婦人は何れの年に於ても極めて少數にして聊かも増加の傾向を認めざるは甚だ遺憾に耐へざる所なり



閱覽圖書の種類は其數に於て歴史文學倫理宗教地理の順序を以て取扱はる婦人は主として文學を要求すること他の館に異らす而して一人一日平均の要求冊數は約參冊に當れり

月變化の状態は毎年九月に於て最少數を認め六月に於て最多數を認め其間三四月の交に於て猶ほ一度多數を認むるか故に一年中には二回の高低波動をなすを年々の例とす洋書の閱覽は比較的少數にして其状態は和漢書に異ならず主に學生により閱覽せらる

字典事彙年鑑等の参考書は閱覽室の卓上に備付け新聞雜誌報告書類 Pamphlet は新聞雜誌室に最新刊のものを取替へて自由に放任しおれは此等の閱覽人員及冊數は統計の外とす

### 閱覽人との連絡

圖書館の三因子たる圖書閱覽人館員の連鎖は極めて必要なり圖書の精良館員の適任閱覽人の達識此の三者の合致を俟て始めて圖書館の完全なる効果を見るを

得べきなり此等三者の連絡を結ぶ爲めに本文庫には左の會合あり

款話會 本會は從來公開實施紀念日なる十一月三日を以て毎年之を行ふ本文庫に特殊の關係を有する人及び回数最も多き閱覽人百餘名の會合を請ひ互に茶菓を控へて談笑懇話の間に文庫經營の方針施設に對する希望等を述べ専ら文庫發展に關する諸點に就き文庫員と閱覽人と相互の意志を疏通せしめ文庫利用上取て支障なからしめんことを圖る

讀書會 閱覽人中特志の人数名と文庫職員と毎月一回相會し各自研究せる學術の結果を提示して質問批評を求め或は未だ公にせざる著述の披露をなし又新刊圖書の紹介品騰を行ひ専ら斬新の智識を交換し文庫藏書利用の上に於ても選擇購入の上に於ても尠からす内外相互の便を得つゝあり會員は法文醫理等の各科に涉りて其人あり軍人敎職實業に従事せらるる人もありて會する毎に各方面の談話は賑ひて頗る有益なり

### 紀念會講話會其他の事業



圖書館は圖書の閲覽を以て最も重なる事務とするは言を俟たされとも閲覽室を以て圖書館事業の限界となす可きにわらず本文庫は公開の月より直に學術講話會を開催し爾後引續き諸種の公衆會合を舉行せり

學術講話會 文教隆盛の今日學校教育は殆んど洩れなく行渡れる如くなれとも教室以外の社會教育に至つては甚だ遺憾とする所鮮からず其缺を補ふの目的を以て毎月社會先覺の士を招き其專攻の學術に關する通俗講話會を開き公衆の入場を許し一は智徳の修養に資し一は面り先覺の士に親炙する機會を與ふ其題目に至ては弘く各科に涉り常に時世の進潮人心の移動を斟酌す又婦人の爲めに特別の講演を開く

兒童會 兒童に對しては時を期して講話若くは他の會合を開き一は兒童の爲に一は父兄の參考として注意を促し來り通俗物理の實驗參考玩具の展覽新案屋外遊戯地理風俗の談話及活動寫真等の方法により専門の博士教授等の指導に從ひ兒童の感興と教育との調和を旨とし偏に學校教室に於て爲す能はざる特殊の教練を試むるを目的とせり

創立紀念會 五月二十日は本文庫の創立紀念日なるを以て常務を休止し文庫員一同過去を反省し將來を祝福するの日なり毎年其前後適當なる日を選びて特殊圖書并參考品の展覽及び此に關する講話會を開催し兩三日間公衆の入場を許すを以て年來の例とす此日の展覽は一定の題目に限り之に關する特殊の圖書及び侯爵家所藏の什器を陳列し取扱上平日は容易に公衆に示し難き圖書物品をも陳列し實物教育の一助に供す又此日は古く侯爵家に傳はりし古昔志摩國學に奉崇せる孔夫子聖像を一室に奉祀し舊紀州藩學崇祀の四配十哲の軸を配祀し篋篋豆等の奠器を陳ねて東洋古聖賢に對する敬意を表す

猶ほ以上諸會合の外臨機碩學鴻儒を招待して其効績を表彰し世上に盡せる効勞を慰藉する企をなす

## 文庫員

本文庫細大の事務は悉く庫主侯爵親ら總攬する所に係る主幹一名現任齋藤勇見彦事務を管理し掌書部六名會計書記部三名裝潢部三名暖房機關部二名巡掌二名



庫丁三名書籍出納手并給仕八名門衛一名園丁其他若干名を以て漸く日常の事務を進捗しつゝ、あり必要に應じ適當なる人士を臨時招聘囑託することとせり  
職員は文庫并圖書事項につき各自の研究經驗にして参考となるべき知識を互に交換する目的を以て時々會合をなし文庫發展に資しつゝ、あり

### 南葵 規則

第一條 本文庫は設立者及び其繼承者の藏書を公衆の閱覽に供す

第二條 本文庫は左の時間を以て開閉す

自十一月至二月 午前九時開午後八時閉

自三月至十月 午前八時開午後九時閉

但當分の内は午後五時迄とす

第三條 本文庫休日左の如し但臨時休日は其都度揭示す

歳首五日間 自一月一日至一月五日

歳末四日間 自十二月廿八日至十二月卅一日

掃除日 毎月一日十五日 但土曜日日曜日祭日に相當する時は

順延

曝書期 八、九の中凡二週日間



紀元節

天長節祝日

地久節

春秋家祖祭日 三月七日  
十一月七日

文庫創立紀念日 五月二十日

第四條 本文庫の圖書を閲覧せんと欲せは所定の閲覧券又は相當責任者の捺印ある紹介状を持參せらるへし但閲覧料を徴せず

第五條 圖書の借出返却の方法及着席順序等凡て係員の指示に従はるへし

第六條 本文庫は時々學術講話會を開く事あるへし

第七條 帶外貸出は一切之れを爲さず

明治四十一年十月

大正二年九月十三日印刷  
大正二年九月十七日發行

# 南葵文庫

編輯兼發行者 齋藤勇 見彦  
東京市麻布區飯倉町六丁目十四番地

印刷者 見常 喜一  
東京市芝區愛宕町三丁目二番地

印刷所 東洋印刷株式會社  
東京市芝區愛宕町三丁目二番地



278  
221

昭和拾六年四月廿四日

製本控

278

函

221

號

年

月

日

南葵文庫概要 大正二年月刊

南葵文庫發行 1册

備考



終

